

初夏の風浴び快走

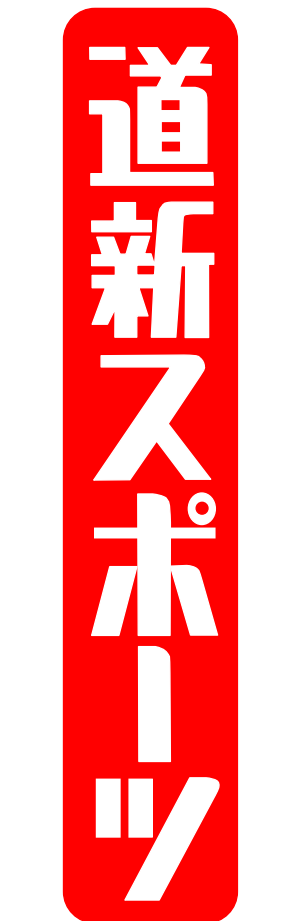


発行所
北海道新聞社

郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
©北海道新聞社 2007



インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp
ご購入申し込みは
0120-464-104



絶好のマラソン日和の中、スタートを切ったハーフのランナーたち。3日午前9時30分、千歳市青葉公園

千歳JAL国際マラソン

第二十七回千歳JAL国際マラソン(千歳市体育協会、日本航空、北海道新聞社、道新スポーツ主催)が三日、千歳市青葉公園発着の四コースで行われた。今回は道内外から大会史上最高の九千四百九十六人がエントリーし、緑濃い初夏の支笏湖林道を疾走した。

新緑の回廊に笑顔

史上最多9496人

競技はフル、ハーフ、10キ、3キの四コースで、年齢別など二十六種目が設けられ、全国四十二道府県のランナーが大集合した。この日は初夏の日差しが、走者の影をくっきり落とす絶好のマラソン日和。午前九時すぎ、千歳市の山口幸太郎市長や大会関係者らが陸上自衛隊音楽隊の演奏にあわせて青葉公園入り口から、ランナーが待ち受けるスタート地点まで行進した。

選手たちは号砲前、思い思いの準備運動やエアロビクス体操で体を温め、午前九時半のハーフを皮切りに、3キ、フル、10キの順で次々に出発した。沿道は緑輝く森林。ランナーは、木の枝越しに空を見上げながら息を弾ませ、ゴールを目指して心地よい汗を流した。

フルマラソンのコースは三三三地点で林道から、千歳川沿いの道がゴールまで続く。体力、気力がくじけそうになる難所だ。だが、選手たちは三七キ地点で爽快な水のシャワーを浴びて息を吹き返し、最後の力を振り絞る。彼らを支えるボランティアの人たちも懸命だ。給水所ではスポンジとバナナを選手に手渡し、「頑張れ!」「あと一息」と、選手の完走を祈り続けた。

ゴールでは完走を果たした選手たちが流れる汗をぬぐいながら、心地よい疲れと満足感を味わいながら、初夏のマラソンの余韻を楽しんでいた。

完走者の全記録は6月13日の道新スポーツに掲載します。



最後の力を振り絞ってゴールに駆け込む子供たち



緑の光を浴びてゴールを目指す参加者

広がる快感



ゴール地点では陸上自衛隊の機甲太鼓の熱演も



ランナーを励ますスカイレディや大会マスコットのラン坊、ラン子

千歳、支笏湖 プチ観光

▽支笏湖

車で道道を通って約30分で支笏湖畔へ。恵庭岳、樽前山を望みながら、温泉でマラソンの疲れを癒やすもよし、湖畔の店でチップ(ヒメマス)や山菜を味わうもよし。チップは6月1日に解禁になったばかりだ。もうひと足伸ばせば、湖北側の丸駒温泉、伊藤温泉にも行ける。また、湖上には水中を観察できる遊覧船が走り、湖岸や周辺の山のみもとでは春から初夏の花が盛りを迎えている。

▽新千歳空港と周辺

車で10分で、年間1800万人が利用する北海道の空の玄関に着く。旅客ターミナルビル内には道内各地の土産物を扱う売店、飲食店や航空関連品のショップ、航空史上の名機の模型展示など乗降客以外の人も十分楽しめる。発着する旅客機を見学する展望デッキ(入り口3階)からのながめも格別だ。JR南千歳駅に隣接するアウトレットモール「レラ」は4月に増床し、約150の有名ブランド店が並ぶ。

▽農村地帯

千歳は「空港と自衛隊のまち」だが、市内東部の丘陵にはのどかな田園風景が広がる。長沼方面に向かう国道337号沿いには農家の直販所、アイスクリーム工房、フランス料理店などがあり、最東端の東丘、幌加などには観光牧場も。

▽千歳川沿い

千歳市が誇る清流。花園2には道の駅「サーモンパーク千歳」を核に、公園、遊歩道、レストランなどがあり、散策にはもってこいのスペース。サケの生態や魚の展示で知られる「千歳サケのふるさと館」(大人800円、小中学生300円ほか)が隣接する。